

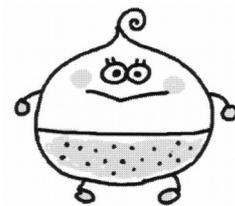
HDM推進会（第 22回）／ごみゼロネット推進会（第 44回）議事録

開催日： 2012年（H24年）3月 7日（水）10:00～12:00

場所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 平林、加藤、大橋、杉本、加賀谷、川村、桐生（作成）

議題：



1. 現状分析と今後の対応方針（平林）

稲葉市長になって、従来と同じ進め方が難しくなった。議員の間でHDMに拘るのはどうかの意見も出ている。今後は相手の出方をよく見て対応したい。

2. 今後の検討事項の提案（桐生）

これまでは「微生物処理」と、前工程である「分別収集」に集中して議論してきた。微生物処理が開始されると、約9000トンの生ごみから約900トンの堆肥が製造される。小金井市が処理施設を運営する場合、これをどうするのか、今後は後工程の「堆肥の処理」の問題も議題に加えて欲しい。

3. フォレスト社伊藤氏との会合とジャノメ跡地現地視察の報告（加藤）

資料「HDM（フォレスト伊藤氏）との話し合い及び蛇の目跡地現地視察報告概要等」を配布し、説明。久喜宮代衛生組合／我孫子市／鳥取市（民間200kg／日）／びっくりドンキー店30kg／日／御殿場市500kg／日の情報。200kg／日設備のコスト／ジャノメ跡地での設置候補場所4ヶ所。ごみ減量等審議会。生ごみ市民協議会発足準備会。3/5定例会に検討して欲しい議案。

4. 情報交換（全員）

- 石坂KFと偶々会って話し合った。「微生物処理を市の方からやるのは難しい。町内会等でやるのなら市から金を出せる・・・」「水切りモニターにやって貰ったが、目標20%なのに10%にしかなかった」（杉本）
- 市はごみ量を「水切りで300トン減らす」このために「1万所帯を対象に7.8%減量する」計画。「本年度は可燃ごみを1%減らす計画が5.8%増えてしまった」「使い古した靴と鞆を市民がリサイクルセンターまで持参してくれるようキャンペーンを行う」この程度の智恵しか出ていない。（加藤）
- 市長が替わって市庁舎建設は事実上無期限延期となった。諦めていた実証試験の場所として、ジャノメ跡地が再浮上する。（加藤）
- 稲葉市長は一部事務組合に入ることを志向している後4000～5000トン減らして9000トン位になるのが一部事務組合に加入する条件になっている。（加藤）

5. 全戸分別収集は可能か（全員討議）

桐生より2012/3/7付け「燃やすごみ削減の低減」を配布して問題提起。「できる」「できない」で嘗てない大激論となった。桐生の主張は「技術的には不可能な要素は全くない。やらないのはやれないと思っ込んでいる負け犬根性だ」。加藤氏ほかの反論は「議員の半数以上が賛同しなければできない。現状ではそれは無理」「稲葉市長がその座にある限り、絶対無理」。結論は出ず。

以上

当日の14時より、行政とジャノメ跡地での実証試験場所の検分が行われた。(有)調布清掃の現場責任者は、我々の挙げる全ての候補地について、現在の作業実態から無理があると個別問題点を具体的に指摘した。

